

## 自分の転機をつくる！

茗溪塾塾長 宇野雅春

夏期講習の授業がほぼ終了しました。ここから、夏期合宿や短期集中特訓そしてやり直しタームへと続きます。夏期講習はたくさんの方が、次々と与えられ十分に消化されていないことが多いものです。ここから9月10月頃まで、やり直しと整理をすることで力を大きくのばすことができます。講習の授業が終了してもここからが大切な時期であることを自覚しましょう。

受験生をみていて思うことはいろいろあります。今の小学生、中学生が親になる頃はいったいどんな風に世の中が変わっているのだろうか？ということなのです。

何故そんなことを考えるのかというと、すでに昔の教え子の子供が塾に通うようになっていくと、受験生という時期から大人になるまでの時間がそれ程長くないことを痛感するからです。中学3年ならあと5年で大人になります。今いわれている18歳成人という法律が通ればあと3年で大人と見なされる訳です。10年後には親になっている人もたくさんいるかもしれません。ここまでの10年とこれからの10年は多分それぞれにとっては全く違うものになるはずですが、なぜなら、保護者に全て依存しているところから自立するという大きな絶壁を登る時期になってくるからです。そうした個人的なことだけではなく、第2次世界大戦以降、奇跡の復興を成し遂げ世界の頂点に君臨した日本のこの60年間とは明らかに異なる次の10年が、国の規模でもあるという気がするのです。つまり日本という国自体が転機を迎えているということなのです。

中国、インド、韓国すでに日本を追い抜く勢いの国はたくさんあります。「学校へ行きたくてもいけない」厳しい状況で、必死でがんばって優秀な能力（語学力も含めて）を身につけた外国の人材の方が価値ある存在になってきている状況も看過できません。

今現在は、「勉強がきつくないやだなあ」という気持ちから、自分たちを哀れんでいた日本の子供も、10年もたてば、あの頃はよかったなあと思いを返すようになるのではないかなと思うのです。つまり世界中でも最も恵まれた国の子供であったことにいずれ気づくのではないかなということなのです。

勉強したくても学校へ行けない子供がたくさんいる国もかなりの数ある中で、親に「勉強してください」とお願いされる国？……子供たちは地道な努力や忍耐より、楽で格好のいいことや努力なしの華やかさへの憧れに甘い幻想を持っているように思えます。受験さえ「夢」や「希望」という抽象的な次元に追いやられてしまうこともあります。

先日の新聞でも親の収入によって進学が左右されている現状が紹介されていました。

すでに日本国内でも格差が大きくなってきているということなのです。私たち戦後世代が生きてきた流れは何しろ年ごとに、新しい何かが開発され、年ごとに生活が豊かになり進歩していく右肩上がりの時代でしたがこれからはそうはいかないということなのでしょう。同じ時代が繰り返されることはないのですから、若い人ほどその変化に敏感でないといずれ「こんなはずではなかった」という厳しい局面に立たされるのではないかなと思います。

人生には転機というものが何度も存在します。自分の力ではどうにもできないこともたくさんありますが、転機はさりげない日常に訪れます。うれしいことだったり、「不幸」だったりそれは何とも言い切れないものなのですが、その転機で何を考え何を行動するのかで人生は決まるということなのです。

2009年夏も受験生にとっては大きな転機のはずです。一生を左右するいくつもの「きっかけ」が、あちこちに仕掛けられています。「夏はチャンス！」は塾の今年の夏のテーマですが、目標をしっかりとって、できれば自分を鍛える方向で、「選択」をしていくことがベストだと思います。自分の転機を作ること！そこから見える世界が変わってくると思います。